

# 歴史年表

西暦	元号	黒石市	全国
1603	慶長 8		・徳川家康、江戸幕府を開く
1615	元和 元		・大阪夏の陣で豊臣氏滅亡
1620	元和 6	・藩祖 <b>信英</b> 、江戸神田の津軽藩邸に生まる	
1641	寛永 18		・鎖国完成す。オランダの商館長崎出島へ
1642	寛永 19	・信英、幕府旗本となり、黒石1000石知行となる	
1645	正保 2	・信英、このころ山鹿素行の門に入る	
1947	正保 4	・弘前藩に「正保御家騒動」おきる。三代藩主信義を廃して信英を藩主にしようと企てる	
1651	慶安 4		・慶安事件
1656	明暦 2	・津軽信政、四代藩主となる。信英、後見人となる	
1660	万治 3	・田山 <b>藤左衛門</b> の指揮下、田川堰開通する	
1661	寛文 元	・信英、弘前藩の藩庁日記を始めさせる	
1662	寛文 2	・信英、弘前城内にて没す(43歳)	
1666	寛文 6		・山鹿素行、赤穂に幽閉
1687	貞享 4		・生類憐みの令
1689	元禄 2	・田山藤左衛門、天領となった黒石分家領の年貢徴収を行う。黒石分家は元禄2年9月、二代信俗の死で断絶。この後、元禄11年の上州領との交換まで目内沢・飛内・小屋敷・馬場尻の四カ村は天領となる	
1709	宝永 6		・新井白石登用
1716	享保 元		・徳川吉宗、八代将軍となる
1720	享保 5	・このころ、黒石三代領主津軽政兇(まさたけ・まさとら)、日本最古の釣り書「何羨録」 <sup>かせんろく</sup> を著す	
1755	宝暦 5		・安藤昌益、「自然真営道」を著わす
1766	明和 3	・大地震があったが家老 <b>境形右衛門</b> の対策宜しきを得て被災者救われる	
1772	安永 元	・このころ(~80)、境形右衛門、温湯を保養地として繁昌させ、また黒石町堰を通す	・田沼意次老中となる
1787	天明 7	・黒石元町の沢屋で弘前藩士狼藉をする(黒石市家騒動)	・松平定信老中となる
1809	文化 6	・第八代黒石領主津軽親足一万石となり、大名に列せられる	・間宮林蔵、間宮海峡発見
1816	文化 13	・黒石藩主親足の子、久鶴の葬儀を黒石保福寺で行う。この後、歴代藩主の法要を保福寺で行う	
1821	文政 4	・この頃、二代境形右衛門、馬乗り(草競馬)・盆踊りを盛んに	
1821	文政 4	・矢立峠で津軽寧親襲撃未遂事件起こる	
1823	文政 6	・山崎銀蔵、出家し、 <b>是空</b> と名乗る(25歳)	
1824	文政 7	・是空、黒森山に浄仙庵を開く	
1825	文政 8	・ <b>丹羽寂導</b> 、是空の門に入る	・異国船打払令
1841	天保 12		・天保の改革
1853	嘉永 6		・浦賀にペリー来航
1858	安政 5	・竹内 <b>清明</b> 、弘前田茂木町に生まる	
1860	万延 元	・正井 <b>観順</b> 、尾上に生まる	
1867	慶応 3	・幕末から大正初年まで黒森山浄仙寺の寺子屋(いわゆる黒森学校)が津軽農村の教育の中心として盛名をはせる	・大政奉還
1871	明治 4	・廃藩置県で竹内清明一家、浅瀬石に移住する	・廃藩置県

1876	明治 9	・ 是空没(78歳)	
1878	明治 11	・ 宇野要三郎、六郷村上十川に生まる	
1880	明治 13		・ 国会期成同盟結成
1881	明治 14	・ 竹内清明・加藤宇兵衛ら、黒石に自由民権運動の結社・益友会を作る	
1882	明治 15	・ 小林不浪人、黒石町甲徳兵衛町に生まる	
1883	明治 16	・ 秋田雨雀が黒石前町、鳴海要吉が黒石横町、綾川(村上要作)が上十川に生まる	
1887	明治 20	・ 松井禮七、六郷村赤坂の宇野家に生まる	
1889	明治 22	・ 丹羽洋岳、山形村板留に生まる ・ 黒石町役場開庁、初代町長に吉村真	・ 大日本帝国憲法発布
1890	明治 23		・ 第一帝国議会
1891	明治 24	・ 小田桐きゑ、中郷村境松に生まる ・ 瓊江丸(79ト)津軽海峡白神岬沖で遭難、250名溺死	
1892	明治 25	・ 正井(観順)覚蔵、尾上村から黒石中町に転住 ・ 南郡郡役所が第二回衆議院議員選挙の投票用紙を浅瀬石川原で焼き裁判事件となる	
1893	明治 26	・ 佐藤耕次郎(雨山)、黒石前町に生まる	
1894	明治 27	・ 正井覚蔵、比叡山にて出家、観順を名乗る(34歳)	・ 日清戦争
1895	明治 28	・ 盛秀太郎、山形村温湯に生まる	
1896	明治 29	・ 奥村新助、中身18キログラムの津軽りんごの木箱を作る	
1897	明治 30	・ 正井観順、比叡山千日回峰行の第一百日行を行う	
1898	明治 31	・ 渋川伝次郎、前町に生まる	
1899	明治 32	・ 憲政党の星亨来黒、竹内清明指揮の憲政本党派と激突	
1900	明治 33	・ 黒石の西谷彦太郎・奥村喜蔵・野呂元蔵の3人、「共産社」を結成、りんご販売の近代化をはかる	
1902	明治 35	・ 小川文代(旧姓石原)市ノ町に生まる ・ (~05)津軽一帯のリンゴ園にシンクイの被害広まる。西谷彦太郎ら3人は弘前の外崎嘉七と組んで袋かけ法の普及をはかる	・ 八甲田山雪中行軍遭難
1903	明治 36	・ 野呂元蔵が袋村で3ヘクタールの秣場をりんご園に代える ・ 松井七兵衛と西谷彦太郎が袋村の農民と組合契約でりんご園を共同経営する	
1904	明治 37	・ 宇野要三郎、京都帝大独法科卒業、神戸地方裁判所勤務 ・ 雨雀、詩集「黎明 <sup>れいめい</sup> 」発行 ・ 雨雀・要吉、青森安方町塩屋旅館で島崎藤村と会う ・ 要吉、詩集「乳涙集」発行	・ 日露戦争
1905	明治 38	・ 正井観順、千日回峰行達成 ・ 丹羽洋岳、浄仙寺の黒森学校へ入学 ・ 綾川、高砂部屋に入門	
1907	明治 40	・ 要吉、下北郡佐井尋常高等小学校に赴任、口語短歌作る	
1908	明治 41	・ 竹内清明、第十回衆議院総選挙で当選	
1910	明治 43	・ 正井観順、比叡山二千日回峰行達成 ・ 奥村新助没(86歳)	・ 大逆事件
1911	明治 44	・ 竹内清明主導で立憲国民党青森県支部解散、全員、政友会に入党 ・ 雨雀、「幻影と夜曲」出版。また戯曲「第一の暁」自由劇場が公演	
1912	大正 元	・ 黒石・川部間鉄道開通	

1913	大正 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立農事試験場開場</li> <li>・ 雨雀、島村抱月・松井須磨子の「芸術座」幹事となる</li> <li>・ 安西如鳩、「烏城志」刊行</li> <li>・ 9月18日、観順、回峰行2555日で行中に倒る(54歳)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次護憲運動</li> </ul>
1914	大正 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 綾川、春場所で前頭に昇進</li> <li>・ 松井禮七、第七回東京連合ピンポン大会で優勝</li> <li>・ 要吉、ローマ字口語詩「土にかへれ」出版</li> <li>・ このころ、西谷彦太郎・順一郎父子、りんご樹形に曲心半円形を創案する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次世界大戦(~18)</li> </ul>
1915	大正 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨雀、盲目のエスペラント詩人エロシェンコと出会う</li> </ul>	
1916	大正 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若山牧水、板留に洋岳を訪ね、20日間滞在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉野作造、民本主義を唱導</li> </ul>
1917	大正 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 綾川、関脇に昇進</li> </ul>	
1918	大正 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小林不浪人、川柳みちのく吟社結成。月刊誌「みちのく」発</li> <li>・ 西谷順一郎、「実地経営苹果栽培講義」発行</li> <li>・ 野呂元蔵没(44歳)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米騒動、原内閣成立</li> </ul>
1919	大正 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京日々新聞社主催第一回連合卓球大会(現全日本選手権大会)が松井禮七の奔走で開かれる</li> </ul>	
1921	大正 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松井禮七、青森ピンポン協会(現青森県卓球連盟)を組織する</li> <li>・ 東京歯科医学専門学校教授松井禮七、大日本卓球協会副会長となる</li> </ul>	
1923	大正 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小林不浪人、東奥日報社に入社(29歳)</li> <li>・ 渋川伝次郎、福民の「渋川東園」の経営に入る</li> <li>・ 宇野要三郎、陪審制度研究のため欧米出張</li> <li>・ 洋岳、歌集「山上静観」発行</li> <li>・ 石原文代、奈良女高師卒業。県立弘前高女教諭として赴任</li> <li>・ 綾川、黒石浦町に青森県初のリンゴ加工工場建てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関東大震災</li> </ul>
1924	大正 13		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第二次護憲運動</li> </ul>
1925	大正 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高木岩太郎・鳴海完造ら黒石エスペラント会結成</li> <li>・ 石原文代、東北帝大理学部生物学科入学</li> <li>・ 要吉、「土にかへれ」を漢字・かなまじり文で出版</li> <li>・ 奥村喜蔵没(70歳)</li> </ul>	
1927	昭和 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋川伝次郎、妻子を連れて青森市新城の淡谷悠蔵農園に住み共同経営に入る</li> <li>・ 宇野要三郎、大審院判事となる</li> <li>・ 川村郁、東郡蓬田村に生まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融恐慌</li> </ul>
1928	昭和 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松井禮七、黒石小学校などに卓球台22台を寄贈</li> </ul>	
1929	昭和 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松井禮七、東京歯科医専を退職</li> <li>・ 血脇守之助より野口英世ゆかりの金時計贈られる</li> <li>・ 雨山ら、「まみし村」を結成</li> <li>・ 竹内清明没(72歳)</li> <li>・ 吉田昌一、東京に生まる</li> <li>・ 丹羽洋岳、青荷温泉を開発</li> <li>・ 青森県立苹果試験場開場</li> <li>・ 佐藤雨山、工藤親作共著「浅瀬石川郷土誌」刊行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界大恐慌</li> </ul>
1931	昭和 6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 満州事変</li> </ul>
1932	昭和 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇野要三郎、東京裁判所所長となる</li> </ul>	
1933	昭和 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 綾川、東京で没(50歳)</li> </ul>	
1934	昭和 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤雨山、「黒石地方誌」発行</li> <li>・ 森林助、「津軽黒石藩史」完成</li> <li>・ 宇野要三郎、大審院部長となる</li> </ul>	

1937	昭和 12		・ 日中戦争
1938	昭和 13	・ 小川文代、東北帝国大学より理学博士の学位を受ける	
1941	昭和 16		・ 太平洋戦争(～45)
1944	昭和 19	・ 小川文代、「みみずの観察」(創元社)を発行 ・ 川村郁、弘高女を卒業して中郷小学校助教諭となる ・ 川柳誌「みちのく」288号で終刊 ・ 吉田昌一、空襲のため五所川原農学校へ転校	
1945	昭和 20	・ 小田桐清、フィリピン・ルソン島で戦死	・ 第二次世界大戦終結 (1939～45)
1946	昭和 21	・ 川柳誌「みちのく」復刊。昭和23年、306号まで続く ・ 松井禮七没(59歳) ・ 渋川伝次郎、青森県りんご協会結成	・ 日本国憲法公布
1947	昭和 22	・ 共立女子大教授小川文代、日本家政学会会長となる ・ 「すみれノ囀ト詩集」発行	
1948	昭和 23	・ 吉田昌一、五農を卒業して黒石の青森県農業試験場農芸化学科に勤務。同年5月、県立黒石高等学校定時制課程に第一回生として入学  ・ 秋田雨雀、舞台芸術院々長となる ・ 青森県川柳社結成、雑誌「ねぶた」創刊 ・ 黒石高校で第一回松井杯青森県選抜卓球大会開催 ・ 西谷彦太郎没(82歳)	
1950	昭和 25	・ 弘南鉄道、尾上から黒石まで開通 ・ 佐藤雨山、「山形郷土物語」刊行 ・ 秋田雨雀、日本児童文学者協会第二代会長となる ・ 黒石小の4年5組が鈴木喜代春指導のもとに学級文集「みつばちの子」発表	・ 朝鮮戦争
1951	昭和 26	・ 川村郁、黒石カトリック教会で洗礼 ・ 吉田昌一、黒石市の波多野武治氏の奨学生第一号となる	・ 対日平和条約調印
1952	昭和 27	・ 宇野要三郎、国家公安審査委員会委員長となる ・ 小田桐きゑ、黒石高校に百万円の茶室「明喜庵」をたてる	
1954	昭和 29	・ 黒石市制施行 ・ 小林不浪人没(62歳) ・ 吉田昌一、北海道大学を卒業。農林省農業技術研究所に勤務	
1955	昭和 30	・ 川村郁、平賀町大木平 <small>おおほくたい</small> 小中学校善光寺分校に勤務 ・ 棟方志功、盛秀太郎を「日本一のこけし作り」と激賞 ・ 渋川伝次郎、東奥賞を受ける	
1956	昭和 31	・ 渋川伝次郎、河北文化賞を受ける	・ 日ソ共同宣言。日本国連に加盟
1959	昭和 34	・ 洋岳、第一回県文化功労賞受賞。歌集「氷紋」発行 ・ 佐藤雨山没(67歳) ・ 要吉、東京にて没(77歳) ・ 渋川伝次郎、青森県褒賞を受ける	
1960	昭和 35	・ 秋田雨雀・宇野要三郎、黒石市名誉市民となる ・ 盛秀太郎、青森県褒賞を受ける	・ 安保騒動
1961	昭和 36	・ 西谷順一郎没(71歳)	・ ソ連のガガーリン少佐人類初の宇宙飛行
1962	昭和 37	・ 川村郁没(36歳) ・ 宇野要三郎、全日本弓道連盟会長となる ・ 洋岳、青森県褒賞を受ける	

1963	昭和 38	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田桐きゑ、黒石高校で「小田桐清奨学金」制度をはじめる(1990年現在33名の奨学生あり)</li> <li>川村郁にカナダのモントリオール神学校よりレイ・クパール賞が与えられる。第二の「アリの町のマリア」といわれる</li> <li>秋田雨雀没(81歳)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビートルズ旋風</li> </ul>
1964	昭和 39		<ul style="list-style-type: none"> <li>東海道新幹線開通</li> <li>東京オリンピック開催</li> </ul>
1966	昭和 41	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋岳、第三歌集「山霊」発行</li> <li>吉田昌一、フィリピン・マニラの国際稲作研究所(略称IRRI)生理部長となる。イリで奇跡の米・IR8を育成、緑の革命といわれる</li> </ul>	
1967	昭和 42	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋岳、「峡谷断章」発行</li> </ul>	
1968	昭和 43		<ul style="list-style-type: none"> <li>国民総生産(GNP)資本主義国第二</li> <li>政府、水俣病らの企業公害認める</li> </ul>
1969	昭和 44	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇野要三郎没(91歳)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アポロ11号月面着陸</li> </ul>
1970	昭和 45		<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪で万国博覧会</li> </ul>
1971	昭和 46		
1973	昭和 48	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹羽洋岳没(84歳)</li> <li>渋川伝次郎、園芸学会功労賞を受ける</li> <li>小田桐きゑ没(84歳)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次オイルショック</li> </ul>
1974	昭和 49	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛秀太郎、青森県文化賞を受ける</li> </ul>	
1976	昭和 51		<ul style="list-style-type: none"> <li>ロッキード事件</li> </ul>
1978	昭和 53		<ul style="list-style-type: none"> <li>日中平和友好条約調印</li> </ul>
1981	昭和 56	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉田昌一、「Fundamentals of Rice Crop Science」を“イリ”より刊行</li> </ul>	
1982	昭和 57	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛秀太郎、黒石市無形文化財に指定される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北新幹線開通</li> </ul>
1984	昭和 59	<ul style="list-style-type: none"> <li>国鉄黒石線廃止、弘南黒石線民営化スタート</li> <li>吉田昌一、肺ガンのため東京で死去(53歳)。“イリ”より「プリンシパル・サイエンティスト」の称号を受ける</li> </ul>	
1985	昭和 60	<ul style="list-style-type: none"> <li>「吉田昌一記念基金」発足。この年、フィリピン大学の学生3名、奨学生となる(現在10名の奨学生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青函海底トンネル貫通</li> </ul>
1986	昭和 61	<ul style="list-style-type: none"> <li>こけし工人盛秀太郎没(92歳)</li> </ul>	
1988	昭和 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>温湯に「津軽こけし館」完成</li> </ul>	